



編集長便り

公立高校入試直前対策(国語)

「思考力・判断力・表現力」が問われる2020年度大学入試改革の影響を受けて、公立高校入試の内容は確実に変化しています。国語では、次の2つの変化が注目ポイントです。

作文問題の視点が変化

従来の作文問題は、与えられたテーマについて自分の経験から導いた意見を述べるものが主流でした。しかし、2018年度の公立高校入試では「プレゼン型」「課題解決型」の出題が増加。複数の資料を読み解き、その資料をもとに自分の意見をまとめ、他の人も納得できるよう書く、というタイプの問題です。

たとえば、次の2つは同じように「インターネット」について論じる内容ですが、問われている能力はかなり違います。

<問題例>

2018年度 大阪府B問題 大問五

五 あなたは授業で、「インターネットの普及は、私たちに良い影響を与えているか」というテーマで討論をすることになりました。次は、先生から出された、討論をする際の【指示の内容】です。あなたなら、どのような意見を述べますか。あなたの意見を別の原稿用紙に二百六十文字以内で書きなさい。ただし、【指示の内容】に書かれている条件1・2にしたがって、文章を書くこと。

【指示の内容】

条件1 聞く人が分かりやすいように、自分の考えとその理由を明確に示しましょう。

条件2 自分とは異なる立場の考えや、自分の意見に対する反論などを想定し、それについてもふれましょう。

2018年度 大阪府C問題 大問五

五 あなたは授業で、「インターネットと私たちの暮らし」というテーマで討論をすることになり、あなたの班は、「インターネットの使用には注意が必要だ」という意見を述べることになりました。そこで、この意見の説得力を高めるために、発表で提示する資料やデータを班で探すことにしました。あなたなら、どのようなことがわかる資料やデータがあればよいと考えますか。あなたの考えを別の原稿用紙に三百文字以内で書きなさい。ただし、次の条件1・2にしたがって書くこと。

条件1 あなたがあればよいと考える資料やデータは、どのようなことがわかるものなのかを具体的に書くこと。ただし、実在するものかどうかは問わない。

条件2 条件1で挙げた資料やデータと、あなたの班が述べる意見とが、どのように関連するのかを明確にすること。

B問題では、自分が感じることを、主観をうまく伝えることが求められています。これは従来の「自分の経験から導いた」意見を述べる作文に近いものです。対してC問題は、他者を納得させるためにはどんな資料が必要か、どう説明すればよいかという客観的な思考が求められているものです。

C問題のような課題解決力が問われる問題は、私立大学入試や大学入学共通テストの試行調査(プレテスト)で出題されており、公立高校入試は明らかにその影響を受けているといえます。

読解問題の素材文が変化

読解問題では、現代社会を反映したテーマの文章を扱ったものが増えてきています。2018年度の入試では哲学的で難解な文章が目立ちました。たとえば、哲学者の國分功一郎さんの著書『中動態の世界』(2017年 小林秀雄賞)は、東京都の共通問題や自校作成問題にも採用されています。

グローバル化した社会はさまざまな課題を内包しており、そうした課題を解決するためには、物事を根本からしっかり考える力が必要となります。哲学的な文章が増えているのは、そうした思考力の基礎づくりでもあるのでしょう。また、「AI」や「環境」に関する文章も多く扱われています。

大学入試改革の影響を受け、今後も作文の出題内容や素材文の変化は進むと思われます。ぜひ最新の問題、新しいテーマに触れるよう心掛けてください。

懸念される読解力の低下

前述のように、深い思考力や高い説得力のある表現が求められるにもかかわらず、逆に子どもたちの文章読解力は落ちていられると言われます。理由は諸説ありますが、その要因の1つが語彙力の低下であることは間違いありません。

語彙力は読解力の基礎です。漢字の読み書きや、よく出る「敬語」「定型表現」などの言語事項をこつこつ学習することをお勧めします。

大学入試改革の影響でどの教科においても記述問題が増え、問題文も長文化しています。語彙力を高めることは、すべての教科の土台づくりにつながるのです。

(教材編集長 上野伸二)

編集長の

ここですよ
ポイント

- 作文問題は「プレゼン型」「課題解決型」に変化
- 読解問題の素材文は哲学やAIなど現代的なテーマに変化
- 読解力の基礎となる語彙力(敬語、定型表現、係り受けなど)は必須